

卵子提供

不妊治療415施設

3割「倫理的問題ない」

岡山大・中塚教授グループ調査

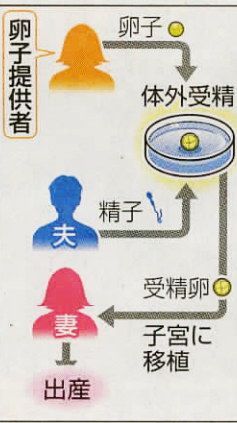
早発閉経などのため卵巣機能が低下した女性が、第三者から卵子提供を受ける非配偶者間体外受精をめぐる、岡山大の中塚幹也教授（生殖医療）らのグループが不妊治療施設などを対象に実施した調査で、回答した415施設の30%以上が「倫理的問題ない」との考えを示したことが9日、分かった。

中塚教授は「医療現場である程度、卵子提供が肯定的に受け止められている」と分析。

一方で卵子を提供する女性の負担や採取時のリスク、子どもの法的地位や出自を知る権利などさまざまな論点があることから「今後さらに議論を積み重ねるべきだ」と話した。

調査は昨年6～8月、日本産科婦人科学一般産婦人科などに

第三者からの卵子提供による出産



健康な卵子をもらい、夫の精子と体外受精させて妊娠、出産を目指す治療。不妊治療施設でつくる民間団体、日本生殖補助医療標準化機関は2008年に自主ガイドラインを策定し、対象を卵子の提供者と限定するべきだ」との提言を出している。

卵子提供について、提供を受ける女性の疾患別に尋ねたところ、「倫理的問題ない」と回答の割合は比較的高く、「40代後半の閉経前」で23%、「50代前半の閉経後」で12%。

実際に自施設で卵子提供による治療を実施する可能性があるとの回答は全体の10%以下だった。提供者確保の難しさや、設備がないことなどが理由とみられる。

調査では「現在パートナーがいない未婚の20～30代女性」が自分の卵子を凍結保存することについても聞いた。「倫理的問題ない」としたのは63%、自施設で実施する可能性があるとしたのは18%で、2%に当たる9施設は実際に実施例があるとした。

中塚教授は「今は仕事優先で、将来は子どもが欲しい」という女性が今後増えていくだろうが、高齢での妊娠や出産にはリスクが伴うことを啓発することも重要だ」と話している。

卵子凍結を望む理由としては、加齢に伴う卵子の老化を避けることなどが考えられる。

早発閉経などのため卵巣機能が低下した女性が、第三者から卵子提供を受ける非配偶者間体外受精をめくり、岡山大の中塚幹也教授(生殖医療)らのグループが不妊治療施設などを対象に実施した調査で、回答した415施設のうち30%以上が「倫理的に問題ない」との考えを示したことが9日、分かった。

中塚教授は「医療現場である程度、卵子提供が肯定的に受け止められている」と分析。一方で卵子を提供する女性の負担や採取時のリスク、子どもの法的地位や出自を知る権利などさまざまな論点があることから「今後さらに議論を積み重ねる

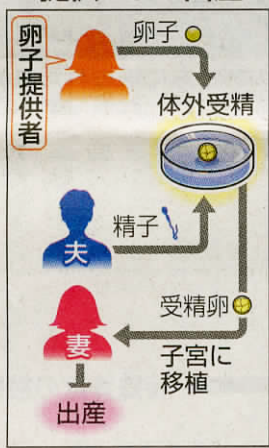
卵子提供 3割肯定的

「べきだ」と話した。調査は昨年6〜8月、日本産科婦人科学の他は周産期医療や一般会に不妊治療施設や周産婦人科など。産期医療施設などとして登録している1157施設の責任者に調査票を郵送して実施、415施設から有効回答を得た。回答者の約半数は生殖医療が専門で、その他は周産期医療や一般会に不妊治療施設や周産婦人科など。

卵子提供について、提供を受ける女性の疾患別「倫理的に問題ない」との回答は悪性腫瘍の治療による15施設から有効回答は悪性腫瘍の治療による

「倫理的に問題ない」との回答は悪性腫瘍の治療による15施設から有効回答は悪性腫瘍の治療による

第三者からの卵子提供による出産



卵子提供による不妊治療 第三者から健康な卵子をもらい、夫の精子と体外受精させて妊娠、出産を目指す治療。不妊治療施設でつくる民間団体、日本生殖補助医療標準化機関は2008年に自主ガイドラインを策定し、対象を「卵子の提供を受けなければ妊娠できない医学的理由が認められる者」とした。日本生殖医学会も09年に「医学的理由が明確なケースに限定するべきだ」との提言を出している。

「さらに議論必要」

中塚・岡山大教授ら調査
不妊治療施設調査

卵巣機能不全(20〜30代)で39%、染色体異常で39%、卵子がないターナー症候群で35%、早発閉経で42%だった。これとは別に、中高年の不妊患者に卵子提供による治療をする場合に「倫理的な問題は」とする回答の割合は比較的低く、「40代後半の閉経前」で23%、「50代前半の閉経後」で12%。

実際に自施設で卵子提供による治療を実施する可能性が、今後の増加が懸念されている。中塚教授は「今は仕事優先で、将来は子どもが欲しい」という女性が増えている。高年齢での妊娠や出産にはリスクが伴うことを啓発することも重要だ」としている。

調査では「現在パー

全て 経済 企業 国際 政治 株・金融 スポーツ 社会 その他ジャンル▼

速報 > 社会 > 記事

卵子提供の体外受精、3割肯定的 岡山大が不妊治療施設調査

2013/2/9 9:45

保存

印刷

リプリント



共有

早発閉経などのため卵巣機能が低下した女性が、第三者から卵子提供を受ける非配偶者間体外受精をめぐり、岡山大の中塚幹也教授(生殖医療)らのグループが不妊治療施設などを対象に実施した調査で、回答した415施設の30%以上が「倫理的に問題ない」との考えを示したことが9日、分かった。

中塚教授は「医療現場である程度、卵子提供が肯定的に受け止められている」と分析。一方で卵子を提供する女性の負担や採取時のリスク、子供の法的地位や出自を知る権利などさまざまな論点があることから「今後さらに議論を積み重ねるべきだ」と話した。

調査は昨年6～8月、日本産科婦人科学会に不妊治療施設や周産期医療施設などとして登録している1157施設の責任者に調査票を郵送して実施、415施設から有効回答を得た。回答者の約半数は生殖医療が専門で、その他は周産期医療や一般産婦人科など。

卵子提供について、提供を受ける女性の疾患別に尋ねたところ、「倫理的に問題ない」との回答は悪性腫瘍の治療による卵巣機能不全(20～30代)で39%、染色体異常で卵子がないターナー症候群で35%、早発閉経で42%だった。

これとは別に、中高年の不妊患者に卵子提供による治療をすることに「倫理的な問題はない」とする回答の割合は比較的低く、「40代後半の閉経前」で23%、「50代前半の閉経後」で12%。

実際に自施設で卵子提供による治療を実施する可能性があるとの回答は全体の10%以下だった。提供者確保の難しさや、設備がないことなどが理由とみられる。

調査では「現在パートナーがいない未婚の20～30代女性」が自分の卵子を凍結保存することについても聞いた。「倫理的に問題ない」としたのは63%、自施設で実施する可能性があるとしたのは18%で、2%に当たる9施設は実際に実施例があるとした。

卵子凍結を望む理由としては、加齢に伴う卵子の老化を避けることなどが考えられる。中塚教授は「『今は仕事優先で、将来は子供が欲しい』という女性が今後増えていくだろうが、高齢での妊娠や出産にはリスクが伴うことを啓発することも重要だ」としている。〔共同〕

[PR] 人生の悲哀を7行の詩で表現すると？【賞金5万円！】



+1

1



ツイート

10



おすすめ

3



チェック



記事を印刷

文字サイズ

小

中

大

「中塚 卵子提供」の記事をお探ですか？ [最新関連記事が 10+ 件](#) あります。

卵子提供:不妊治療施設の30%「問題ない」

毎日新聞 2013年02月09日 20時57分

早発閉経などのため卵巣機能が低下した女性が、第三者から[卵子提供](#) **10+件**を受ける非配偶者間体外受精をめぐり、岡山大の中塚幹也教授（生殖医療）らのグループが不妊治療施設などを対象に実施した調査で、回答した415施設の30%以上が「倫理的に問題ない」との考えを示したことが9日、分かった。

[中塚](#) **10+件**教授は「医療現場である程度、[卵子提供](#) **10+件**が肯定的に受け止められている」と分析。一方で卵子を提供する女性の負担や採取時のリスク、子どもの法的地位や出自を知る権利などさまざまな論点があることから「今後さらに議論を積み重ねるべきだ」と話した。（共同）



卵子提供、3割が肯定的 不妊治療など415施設 岡山大グループ調査

2013.2.9 15:52

早発閉経などのため卵巣機能が低下した女性が、第三者から卵子提供を受ける非配偶者間体外受精をめぐり、岡山大の中塚幹也教授（生殖医療）らのグループが不妊治療施設などを対象に実施した調査で、回答した415施設の30%以上が「倫理的に問題ない」との考えを示したことが9日、分かった。

中塚教授は「医療現場である程度、卵子提供が肯定的に受け止められている」と分析。一方で卵子を提供する女性の負担や採取時のリスク、子どもの法的地位や出自を知る権利などさまざまな論点があることから「今後さらに議論を積み重ねるべきだ」と話した。

調査は昨年6～8月、日本産科婦人科学会に不妊治療施設や周産期医療施設などとして登録している1157施設の責任者に調査票を郵送して実施、415施設から有効回答を得た。

© 2013 The Sankei Shimbun & Sankei Digital

© 2013 Microsoft |  Microsoft

卵子提供、3割の施設が肯定的

2013年2月9日

早発閉経などのため卵巣機能が低下した女性が、第三者から卵子提供を受ける非配偶者間体外受精をめぐる、岡山大の中塚幹也教授（生殖医療）らのグループが不妊治療施設などを対象に実施した調査で、回答した415施設の30%以上が「倫理的に問題ない」との考えを示したことが9日、分かった。

中塚教授は「医療現場である程度、卵子提供が肯定的に受け止められている」と分析。一方で卵子を提供する女性の負担や採取時のリスク、子どもの法的地位や出自を知る権利などさまざまな論点があることから「今後さらに議論を積み重ねるべきだ」と話した。